野辺地防雪原林群
(2004年 土木学会選奨土木遺産)

昭和24年9月1日開通した日本鉄道㈱盛岡～青森間は、豪雪地帯のため、吹雪や吹溜まりによる線路の埋没や視界不明瞭等で冬期間の列車ダイヤは大きな混乱を生じた。開通後2度の冬季を経験した日本鉄道はカナダ鉄道を学び帰国した本多静六博士(後に国立･国定等の自然公園の創設に係わり日比谷公園等を設計した日本公園の父と呼ばれる。)の指導のもと、野辺地を含めた水沢(岩手県)～小湊(青森県)間において38箇所約50haの防雪林の植栽を実施した。この成果は5～6年後から挙がり、その後、新規開通した奥羽本線において採用されている。我が国最初の防雪林として植栽された防雪林は、大半が現在もその効用を発揮している。特に野辺地防雪原林は、その人工的に造成された美しい防雪林として、JR野辺地駅のホームからも望むことが出来、昭和35年に鉄道記念物第14号に指定されている。

全 景

防雪林(6，740㎡)
杉　:21，190本
唐松:約1，000本
竣工年:明治26年(鉄道開通の2年後)